

自然教育園の 7月に見ごろの植物



ヤマユリ

武



アサザ

武



マヤラン

武



ヌマトラノオ

水



ヤブラン

武

水

路



ノカンゾウ

武

水



ヤブカンゾウ

武

水



ミソハギ

水



カワラナデシコ

水



ヤブミョウガ

武

路



ウバユリ

路



ハンゲショウ

水

森



ハグロソウ

武

路



ミョウガ

路

いきもの解説

ヤマユリ

＜7月上旬～7月中旬＞

日本固有のユリ。觀賞価値が高く、庭植え、切り花として栽培されます。1862年にイギリスで紹介されると、ヨーロッパで熱狂的に受け入れられ、明治・大正時代には外貨取得に大きく貢献しました。



武

マヤラン

＜7月中旬～10月下旬＞

名前は、最初の発見地「神戸市摩耶山」にちなみます。葉と根を持たず、地上に姿を現すのは花だけです。共生する菌から栄養をもらっています。



武

ノカンゾウ

＜6月下旬～7月中旬＞

野原や堤防などのやや湿った場所を好む植物で、橙赤色の花が群生する姿はとてきれいです。若葉は甘みがあり、食用となります。花は早朝に開いて1日でしぼみます。



武

水

ミソハギ

＜7月中旬～9月中旬＞

紅紫色の花がとても目立ちます。襖萩（みそはぎ）の名前は、草の姿が萩に似て、旧暦の盆にこの枝葉で襖（みそぎ）をすることによります。お盆の供花として代表的なもののひとつで、精霊花、盆花とも呼ばれます。



水

ハンゲショウ

＜6月下旬～7月中旬＞

葉の一部が白くなっているのが目立ちます。名前の由来は、半夏生（夏至から11日目）の頃に花が開き、葉が白くなるからという説や、半分化粧したような葉にちなむ説などがあります。ただ、園内のハンゲショウをよく観察すると、全く白くならない「すっぴん（化粧なし）」の葉もあります。



水

森

ヤブミョウガ

＜7月上旬～9月中旬＞

食用になるミョウガ（ショウガ科）と葉が似ていて、やぶに生えることが名前の由来。ツユクサの仲間、真っ白な花は、見ただけで涼しげです。



武

路

ミョウガ

＜7月下旬～8月中旬＞

中国南部原産の植物で、栽培のものがよく野生化しています。野菜としてもおなじみ。料理に使われる赤紫色のものは、花の「つぼみ」にあたります。少しわかりずらいですが、花が根元からひょこつと顔を出しています。真っ白でとても美しいので是非観察してみてください。



路

ミスジマイマイ

関東地方で普通に見られるカタツムリ。殻に三本の褐色の帯はいることから、この名前がついたと言われていますが、帯が1本のもの、2本のもの、ないものなど様々です。



アサザ

＜5月中旬～8月上旬＞

池の中で、小さな黄色い花を咲かせています。池沼の開発、水質汚染により日本各地で減少しています。



武

ヌマトラノオ

＜7月上旬～8月中旬＞

湿地に生育する植物。小さくて白い花を咲かせます。「トラノオ」という名前は、長くのびた花の穂の形が虎の尻尾に似ていることによります。



水

ヤブカンゾウ

＜6月下旬～7月中旬＞

ノカンゾウとよく似ていますが、花が八重咲きで、少し大型。人家に近い場所に多くみられます。カンゾウ類は、若葉と花は食用に、根とつぼみは漢方で利尿剤などに用いられ、昔からよく利用されてきた植物です。



武

水

カワラナデシコ

＜7月中旬～10月上旬＞

単にナデシコの名でよく知られ、秋の七草の一つに数えられます。古くから優美な花が観賞され、「万葉集」にも26首詠まれています。



水

ハグロソウ

＜7月上旬～10月上旬＞

葉が黒ずんだ緑色をしていることから葉黒草（はぐろそう）の名前がつけました。花は小さいですが、上下にぱっくりと開いた2枚の花びらが特徴的。是非、じっくりと観察してみてください。



武

路

ヤブラン

＜7月中旬～8月下旬＞

淡紫色の小さな花をたくさんつけています。山地や低地の林にも普通に見られる植物で、栽培もされます。名前に「ラン」とついています。ランの仲間ではなく、アスパラガスと同じ仲間（クサスギカズラ科）です。



武

水

路

ウバユリ

＜7月中旬～8月上旬＞

花が咲く頃葉が枯れるため「歯がない」に音を合わせ、姥（うば）の名前をつけたとされています。ただ、園内のウバユリをよく観察すると、花の時期なのに葉をつけているものも多く見かけます。みなさんも是非観察してみてください。



路

葉っぱの上をさがしてみよう